

第2章 大泉町の現状と課題

1 大泉町の概況

本町は、群馬県の南東に位置し、東は邑楽町、千代田町、西から北にかけて太田市、南は利根川を挟んで埼玉県熊谷市に隣接しています。地形は平坦で、面積は 18.03Km² となっています。また、気候は年間通じて晴天の日が多く、冬季には北関東特有の空っ風が吹きますが、天災も少ない住みやすい地域です。

また、昭和 30 年代から工場誘致や市街地整備を進めてきており、北関東屈指の製造品出荷額等を誇る「ものづくりのまち」としての一面を持っています。また、これらの産業の担い手として外国人住民が多く住んでおり、独自の文化が営まれています。

■大泉町の概況



①位置：

東経 139°24'18"
北緯 36°14'52"

②面積：18.03Km²

③標高：34m

④広ぼう：

東西 4.9Km
南北 6.3Km

⑤人口：41,740 人

⑥人口構成：

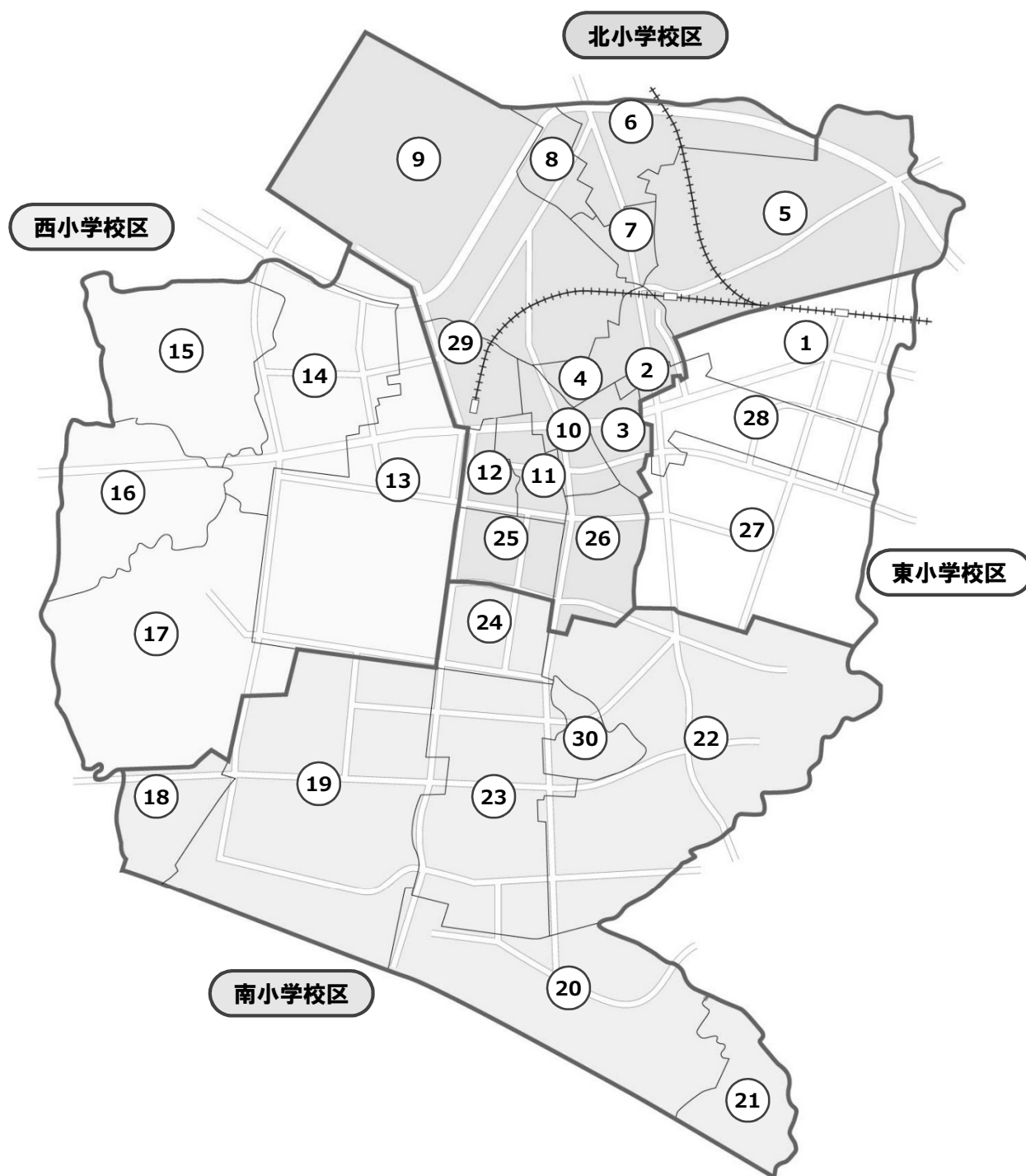
15 歳未満 12.9%
15～64 歳 66.0%
65～74 歳 12.4%
75 歳以上 8.7%

⑦外国人住民比率：17.6%

※⑤～⑦は平成 29 年 3 月 31 日現在

本町は 30 の行政区（区）に分かれており、各行政区で地域活動が展開されています。また、本町の小学校区は、この行政区を基本として4つに分かれています。

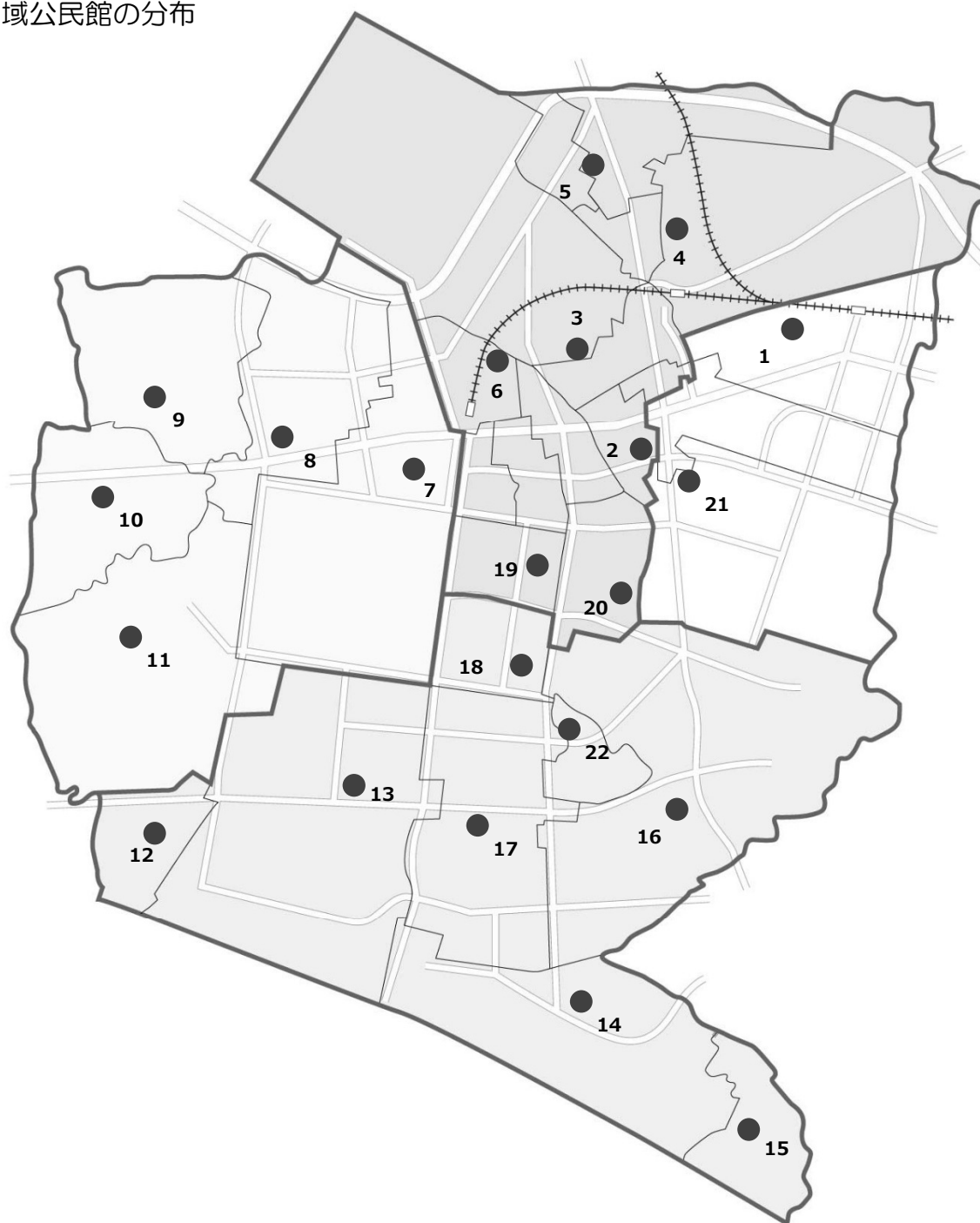
■行政区と小学校区の区分



※行政区境は目安となる

本町は町内に22箇所の地域公民館があります。地域公民館では、地域住民が主体となって、自主的な活動や生涯学習に取り組んでいます。

■地域公民館の分布

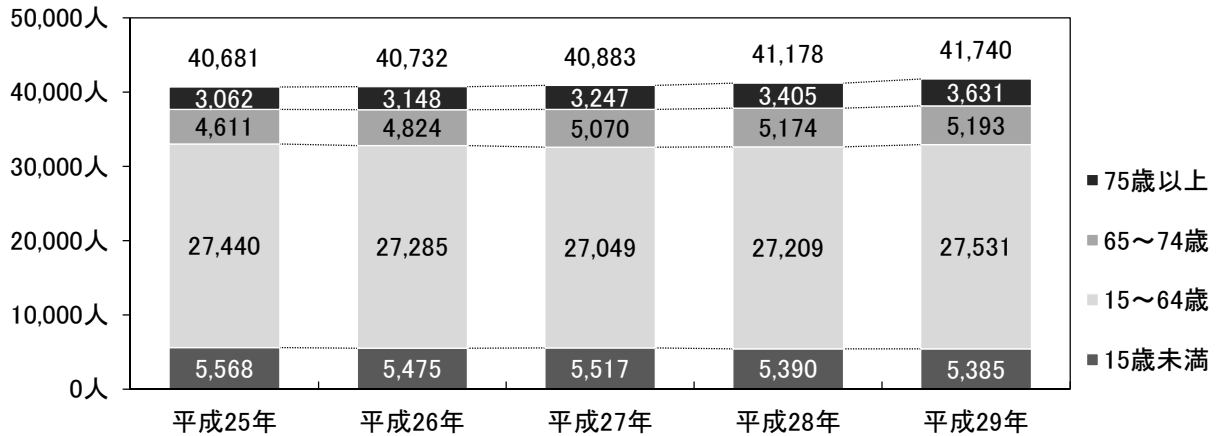


NO	公民館名	該当区	NO	公民館名	該当区	NO	公民館名	該当区	NO	公民館名	該当区
1	東部	1	7	坂田東	13	13	仙石	19	19	住吉町	25
2	中部	2・3	8	坂田西	14	14	古海西	20	20	富士之越	26
3	城部	4・9	9	古氷	15	15	古海東	21	21	南部	27・28
4	第五区	5	10	寄木戸北	16	16	吉田東	22	22	三吉町	30
5	北部	6・7・8	11	寄木戸南	17	17	吉田西	23			
6	西部	10・11・12・29	12	丘山町	18	18	日の出町	24			

2 人口や世帯の状況

(1)人口の推移

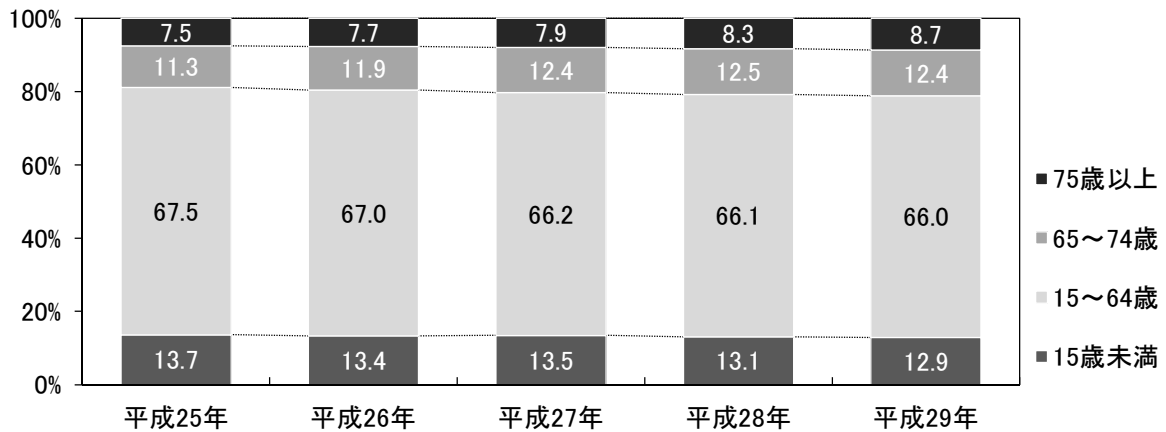
■人口の推移



資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）

本町の人口は、2013（平成25）年から2017（平成29）年まで増加しており、2017（平成29）年には、41,740人となっています。

■年齢4区分の人口割合の推移

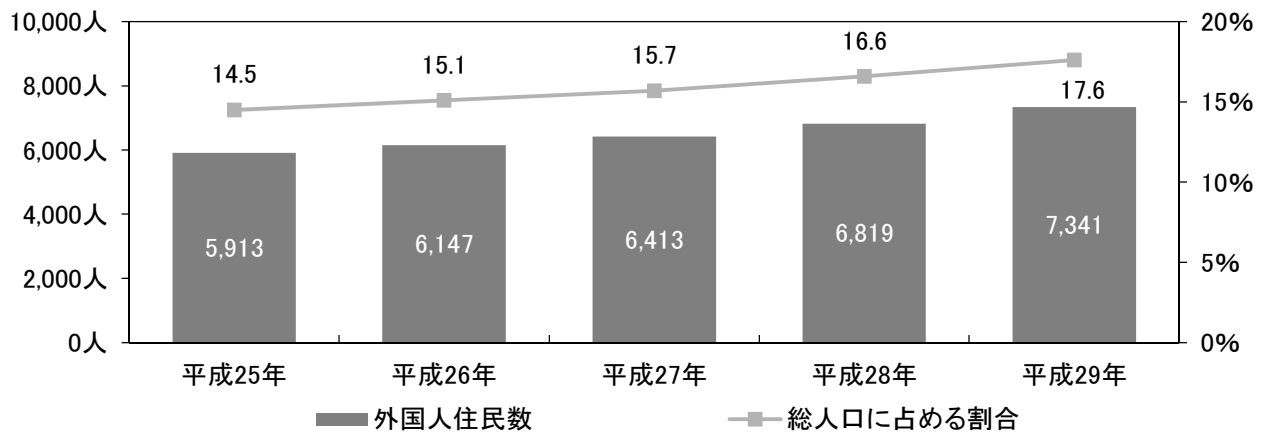


資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）

人口割合では、年少人口割合（15歳未満）、生産年齢人口割合（15～64歳）が減少しているのに対して、前期高齢者（65～74歳）、後期高齢者（75歳以上）ともに、増加傾向にあるため、少子高齢化が進んでいることがわかります。

(2)外国人住民の推移

■外国人住民の推移

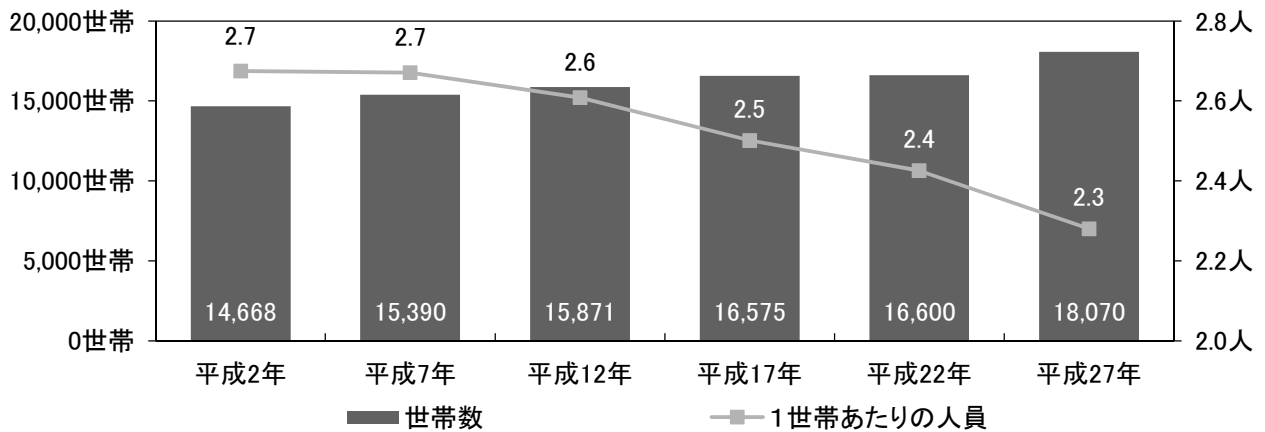


資料：住民基本台帳（各年 3 月 31 日現在）

外国人住民は、2013（平成 25）年から増加しており、2017（平成 29）年には 7,341 人となっています。

(3)世帯数の推移

■世帯数の推移



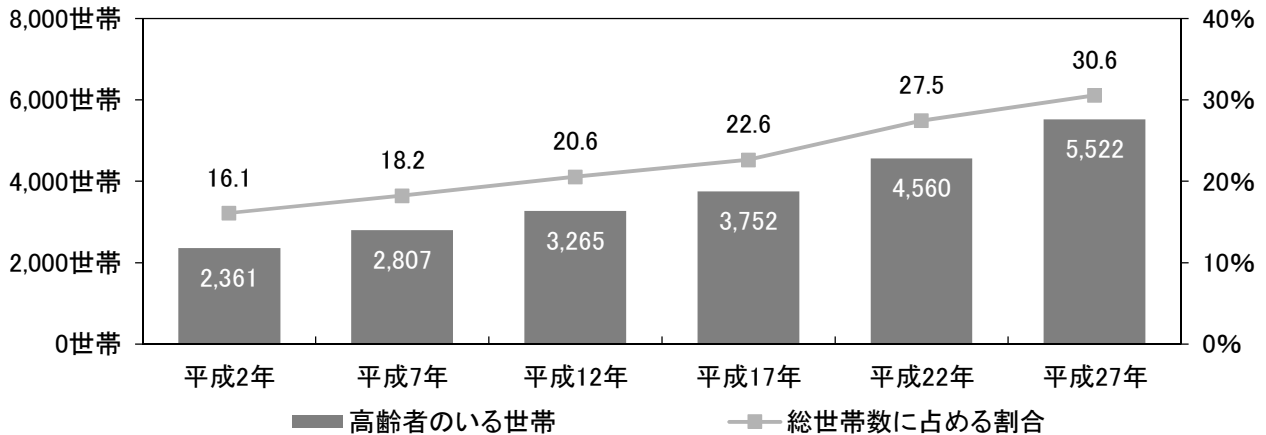
資料：国勢調査（各年 10 月 1 日現在）

世帯数は、増加していますが、1 世帯あたりの人員は年々減少しており、2015（平成 27）年は 2.3 人と世帯の少人数化が進んでいます。

3 支援を必要とする町民の状況

(1) 65 歳以上の高齢者のいる世帯の推移

■高齢者のいる世帯の推移

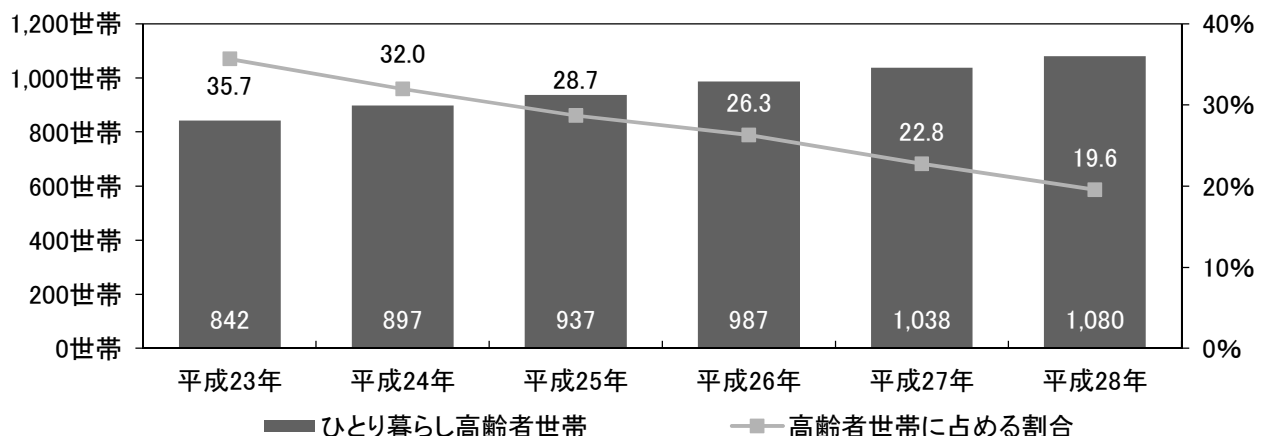


資料：国勢調査（各年 10 月 1 日現在）

高齢者のいる世帯数と総世帯数に占める割合ともに増加しています。特に 2005（平成 17）年から 2015（平成 27）年までの 10 年間で、高齢者のいる世帯は約 1,800 世帯増加しています。

(2) ひとり暮らし高齢者世帯の推移

■ひとり暮らし高齢者世帯の推移

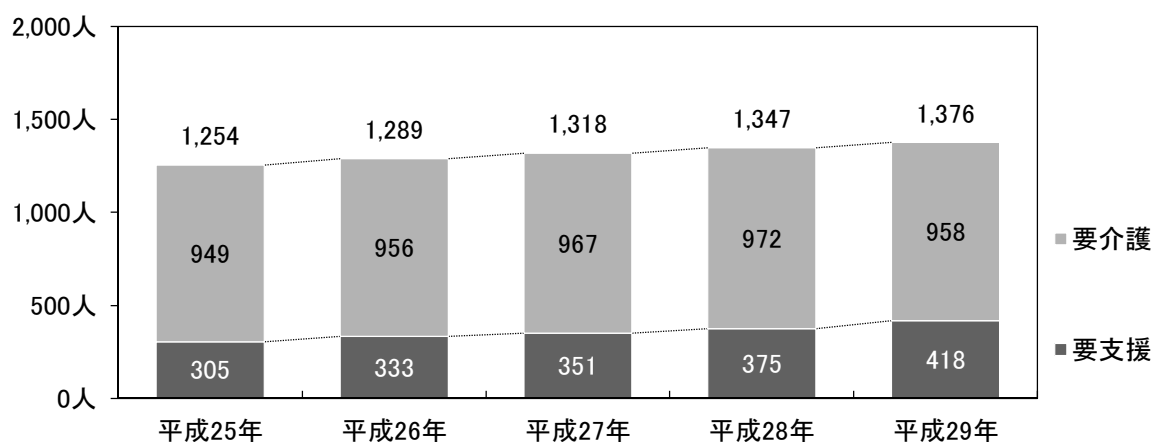


資料：高齢福祉課（各年 6 月 1 日現在）

ひとり暮らし高齢者世帯は、年々増加しており、2016（平成 28）年には 1,080 世帯となっています。一方、高齢者世帯に占める割合は減少しています。

(3)要支援・要介護認定者の推移

■要支援・要介護認定者の推移

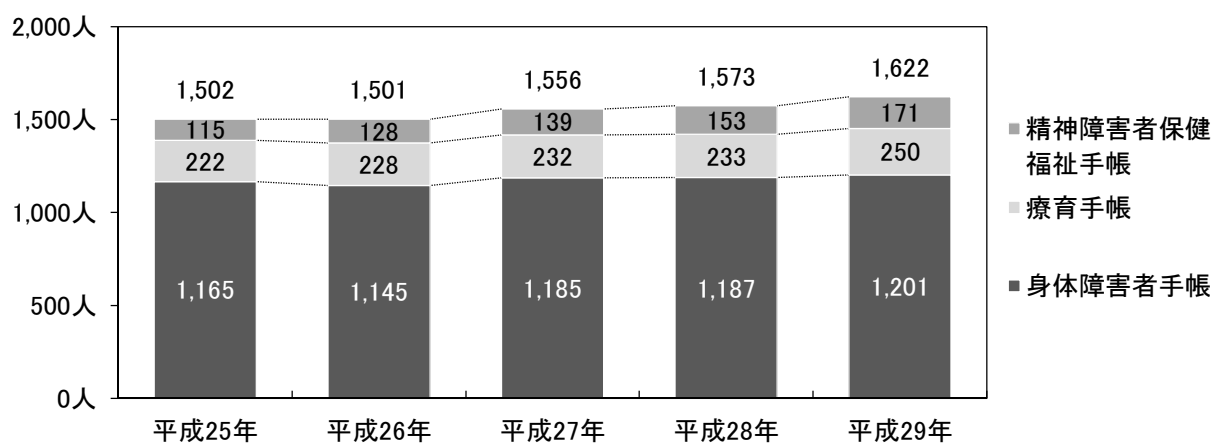


資料：介護保険事業状況報告（各年3月31日現在）

要支援・要介護認定者は2013（平成25）年から年々増加しており、2017（平成29）年には1,376人となっています。

(4)障害者手帳所持者数の推移

■障害者手帳所持者数の推移

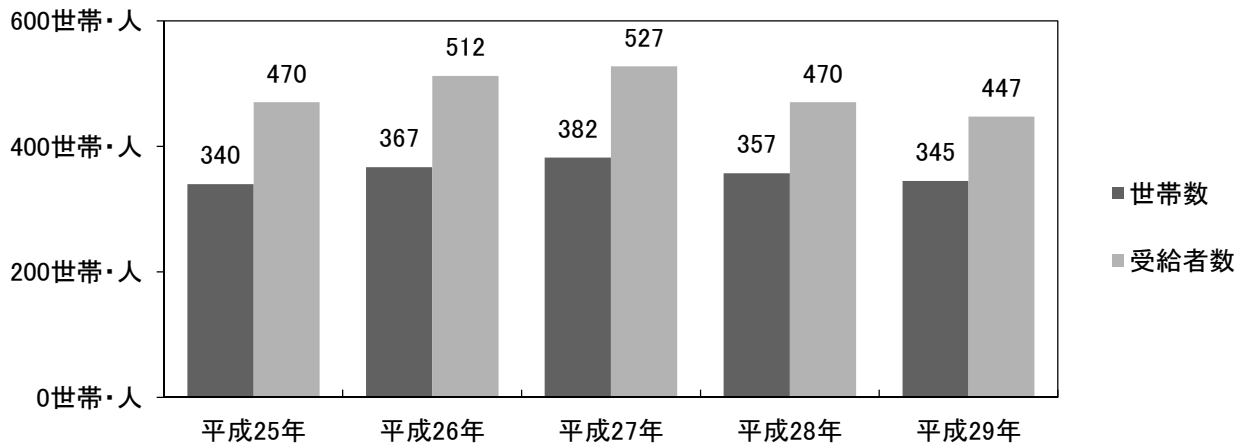


資料：福祉課（各年3月31日現在）

障害者手帳所持者数は年々増加傾向にあり、特に身体障害者手帳所持者の割合は、2017（平成29）年には全体の約74%を占めています。

(5)生活保護受給世帯及び受給者数の推移

■生活保護受給世帯及び受給者数の推移

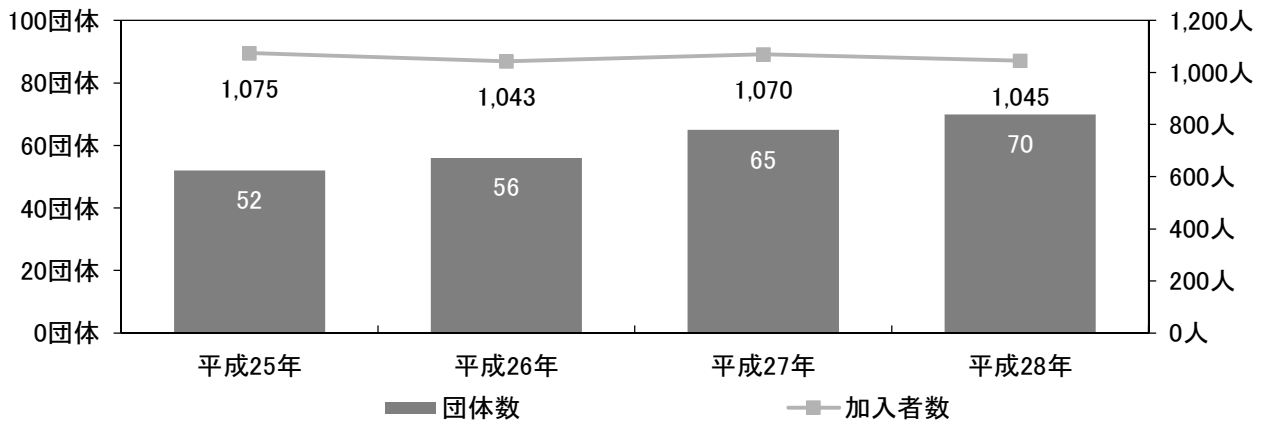


資料：福祉課（各年3月31日現在）

生活保護受給世帯数及び受給者数は近年減少しており、2017（平成29）年には345世帯、447人となっています。

(6)ボランティア団体数、加入者数の推移

■ボランティア団体数、加入者数の推移



資料：大泉町社会福祉協議会（各年3月31日現在）

ボランティア団体数については年々増加しており、一方で加入者数については、ほぼ横ばいとなっています。

4 計画策定に係る町民アンケート・地域福祉座談会結果

本計画の策定にあたり、町民の現状や意向を把握し、計画づくりに反映するために、地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に係る町民アンケート（以下、「アンケート調査」という）を実施しました。

また、町民の方がふだんの地域生活の中で感じていることや、地域での課題を把握するとともに、それらに対する解決策や方向性などをうかがい、計画策定の参考とすることを目的として地域福祉座談会を実施しました。

■ アンケート調査の実施状況

対象	町内在住の18歳以上の町民（人口比に基づき抽出）
調査期間	平成29年5月17日（水）～6月15日（木）
配布・回収	郵送による配布・回収
配布数	1,998件
回収数	670件
回収率	33.5%

■ 地区別 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に向けた地域福祉座談会

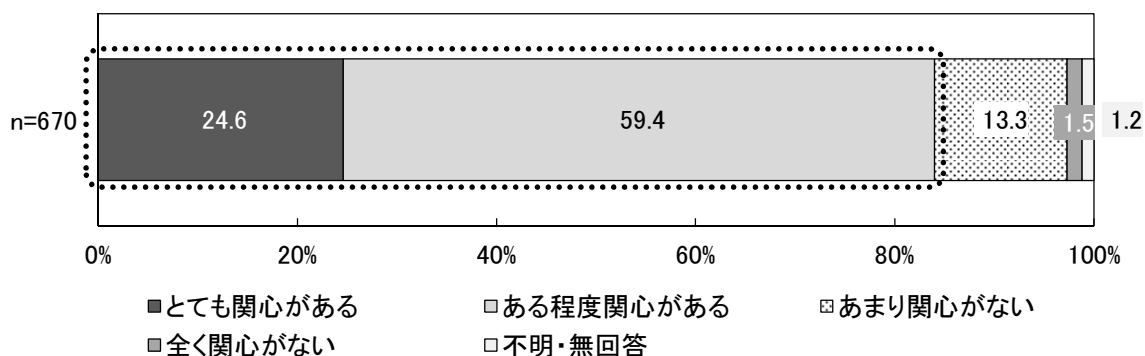
対象地区	1・2・3・5・26・27・28区	20・21・22・23・24・25・30区	13・14・15・16・17・18・19区	4・6・7・8・9・10・11・12・29区
実施日	平成29年8月2日 9:30～11:30	平成29年8月2日 13:30～15:30	平成29年8月3日 9:30～11:30	平成29年8月3日 13:30～15:30
参加人数	32人 5グループ	31人 5グループ	28人 5グループ	37人 7グループ
参加者	区役員、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会役員、老人クラブ役員、子ども会役員、ボランティアグループ会員 など			
プログラム	ステップ1：それぞれのテーマについて「理想の地域」をフセンに書いて発表し、模造紙に貼っていきましょう。 テーマ① 地域における助け合い・支え合い活動が活発な地域とは？ テーマ② 住民の方全員が地域活動に積極的に参加している地域とは？ テーマ③ 地域（内・間）の交流が多い地域とは？ テーマ④ 支援を必要とする方々（子育て家庭や高齢者、障害者など）が住みやすい地域とは？ テーマ⑤ 災害に備えている地域とは？ ステップ2：ステップ1で挙げた理想の地域に近づけるために、具体的な方策をフセンに書き出して発表し、模造紙に貼っていきましょう。そのあと、出た意見を自助、互助・共助、公助に、分類してみましょう。 フリートーク：また、今後、自分が地域で取り組みたいもしくは取り組むことができる福祉活動（近所への声かけなど）について話してみましょう。			

※グラフ中のn=〇〇という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。

※回答結果の割合(%)はサンプル数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものであるため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。

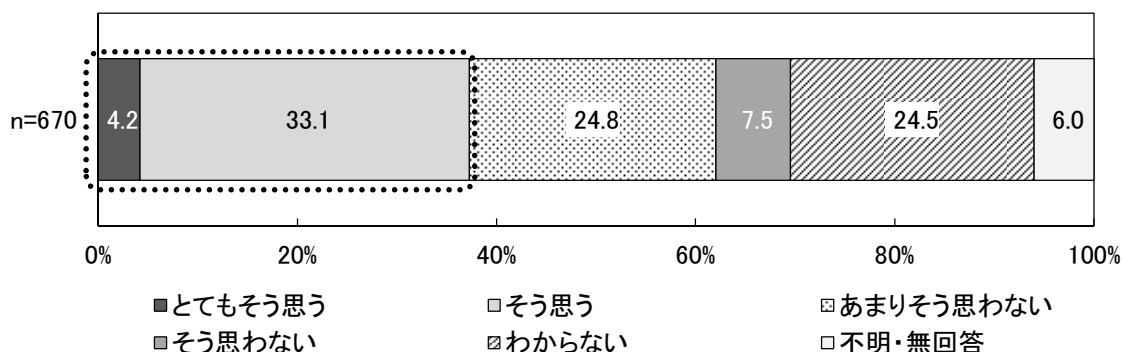
(1)地域福祉の意識について

■あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。(ひとつだけ○)



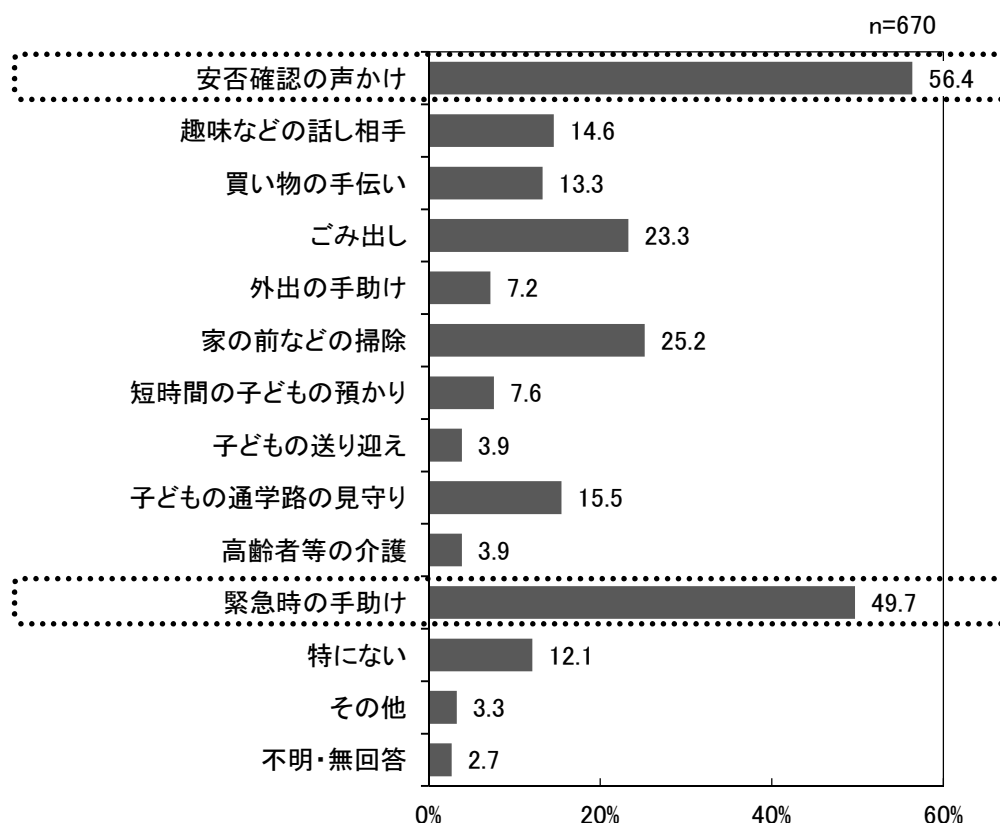
- ・「福祉」に「とても関心がある」及び「ある程度関心がある」と答えた人の割合は、前回計画策定時の調査と同様、約8割を占めています。

■前回計画策定前と比較して、福祉に関心を持つようになったと感じますか。(ひとつだけ○)



- ・前回計画策定時と比較して福祉に関心を持つようになったかどうか、「とてもそう思う」及び「そう思う」と答えた人の割合は4割弱となっています。

- 隣近所で、高齢者や障害のある人の介助・介護や子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

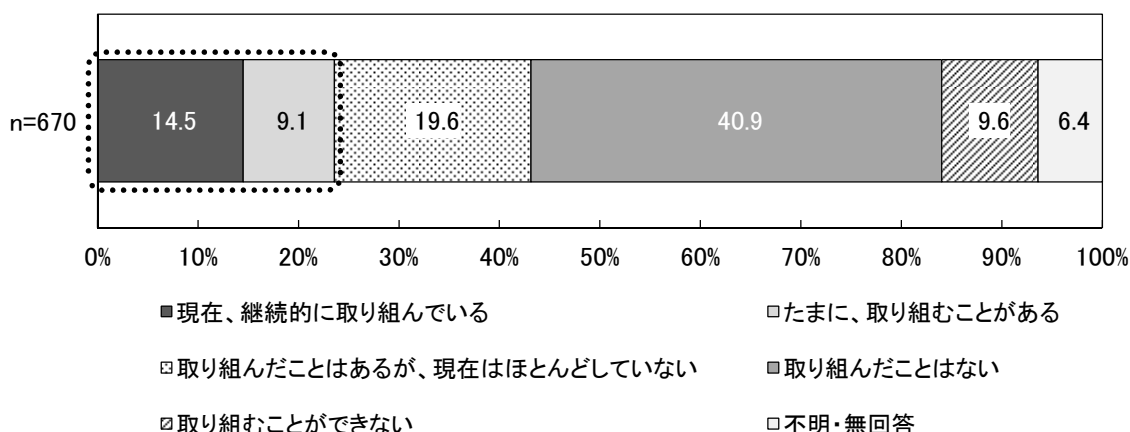


□年代別集計

単位: %	安否確認の声かけ	趣味などの話し相手	買い物の手伝い	ごみ出し	外出の手助け	家の前などの掃除	短時間の子どもの預かり	子どもの送り迎え	子どもの通学路の見守り	高齢者等の介護	緊急時の手助け	特にない	その他	不明・無回答
10代(n=8)	37.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	62.5	37.5	-	-
20代(n=27)	44.4	7.4	7.4	14.8	-	14.8	-	3.7	18.5	3.7	40.7	14.8	-	-
30代(n=59)	44.1	13.6	3.4	15.3	1.7	8.5	10.2	3.4	13.6	3.4	57.6	20.3	-	-
40代(n=91)	54.9	11.0	16.5	23.1	4.4	22.0	11.0	5.5	11.0	-	62.6	13.2	1.1	-
50代(n=117)	59.8	7.7	12.0	15.4	5.1	23.1	6.0	3.4	11.1	2.6	52.1	12.0	0.9	2.6
60代(n=163)	61.3	17.2	20.2	31.3	6.7	31.3	8.6	3.1	20.2	4.3	52.1	9.2	3.7	2.5
70代以上(n=199)	57.8	19.6	10.6	25.6	12.6	30.2	6.0	4.0	16.6	5.5	38.7	10.1	6.5	5.0

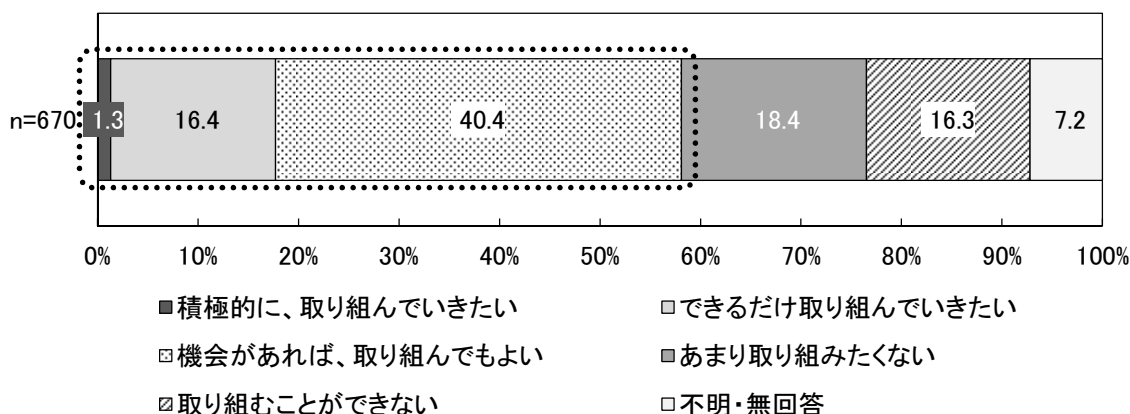
- ・隣近所で、高齢者や障害者の介助や子育てなどで困っている家庭があった場合、どのような手助けができるかについては、「安否確認の声かけ」、「緊急時の手助け」が多くなっています。年代別にみると20代と50代～70代以上では「安否確認の声かけ」が多く、10代と30代、40代では「緊急時の手助け」が多くなっています。

■あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等について、取り組んでいますか。（ひとつだけ○）



- ・地域活動やボランティア活動への参加状況では、「現在、継続的に取り組んでいる」及び「たまに、取り組むことがある」と答えた人の割合は、23.6%となっています。

■あなたは、今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に、どの程度取り組んでいきたいと考えていますか。（ひとつだけ○）



- ・今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等にどの程度取り組んでいきたいかでは、「積極的に、取り組んでいきたい」や「できるだけ取り組んでいきたい」、「機会があれば、取り組んでもよい」と答えた人の割合が 58.1%となっています。一方で「あまり取り組みたくない」及び「取り組むことができない」と答えた人の割合は、34.7%となっています。
- ・自由回答では、「今現在は地域活動に参加できませんが自分なりには福祉活動の必要性は感じています。」【30代男性】、「困っている人、助けが必要な人など状況がわからない。どこで介入できるのかわからない。」【40代女性】、「自らを守ること、厳しくしないことの大切さを浸透させることが必要と思います。頼りすぎている人には自立を促し、行きづまっている人には頼ってもらえるような安心感を作ることが望ましく思います。すべては教育（人を作ること）ではないでしょうか。」【30代男性】といった意見がありました。

《座談会・各テーマで話し合った理想の地域に近づける具体的な方策》

テーマ① 地域における助け合い・支え合い活動が活発な地域とは？

- ・自ら関わる意識を持つ。（自助）
- ・横のつながりのある交流の場を作る。（互助・共助）
- ・ミニサロン活動への助成を行う。（公助）

テーマ② 住民の方全員が地域活動に積極的に参加している地域とは？

- ・常に隣近所とのあいさつを密にし、まず親しくなる。（自助）
- ・声をかけ合って参加を進める。（互助・共助）

テーマ③ 地域（内・間）の交流が多い地域とは？

- ・自分で率先して参加する。（自助）
- ・地域の若者と高齢者の交流の機会を多く持つ。（互助・共助）
- ・交流の場所を提供する（空き家の活用など）。（公助）

テーマ④ 支援を必要とする方々（子育て家庭や高齢者、障害者など）が住みやすい地域とは？

- ・世代交流の場に参加する。（自助）
- ・地域行事に参加しやすい雰囲気にする。（互助・共助）
- ・地域行事の開催の協力をする。（公助）

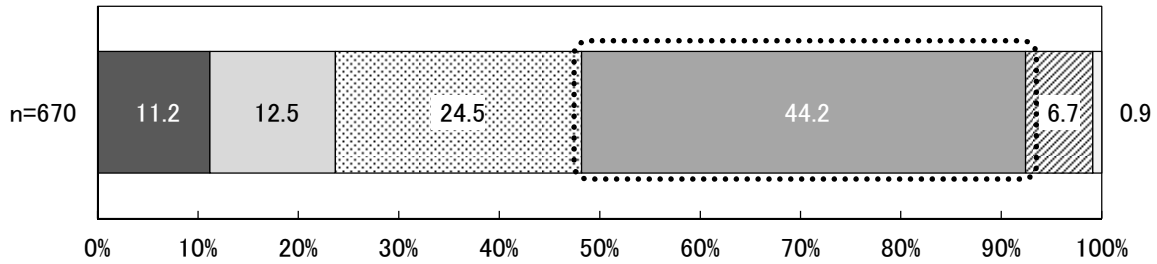
アンケート調査・座談会から見えてきたこと

町民一人ひとりの地域福祉への関心は広がってきているものの、実際に行動している人は少なくなっています。

今後も引き続き、地域福祉への意識の醸成やそのあとの行動につなげられるように地域活動やボランティア活動を推進していくことが重要です。

(2)地域との関わりについて

■あなたは、ふだん近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。(ひとつだけ○)



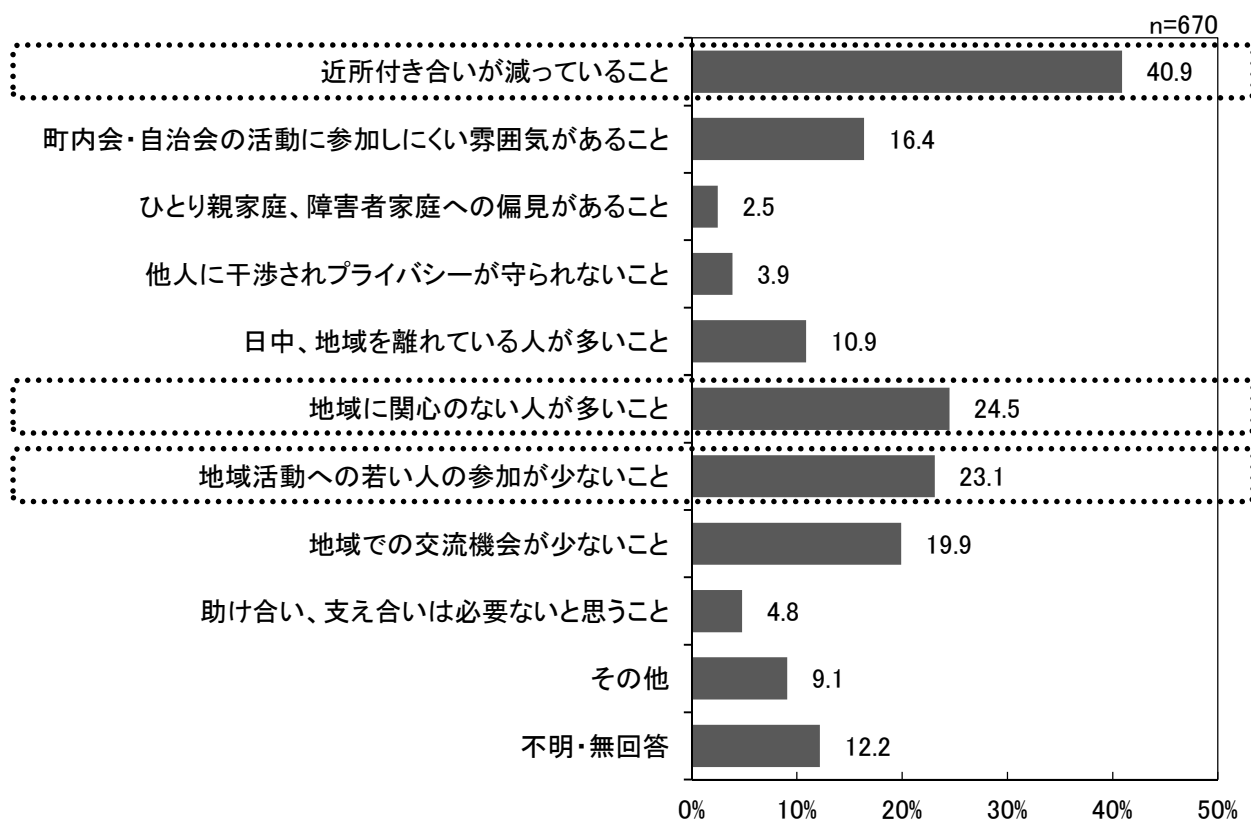
- 困っているとき、相談や助け合いができるような付き合い
- 近所の仲の良い人とよく行き来している
- 会えば親しく話をする人がある
- あいさつ程度がほとんど
- 近所付き合いはほとんどしていない
- 不明・無回答

□年代別集計

単位: %	困っているとき、相談や助け合いができるような付き合い	近所の仲の良い人とよく行き来している	会えば親しく話をする人がある	あいさつ程度がほとんど	近所付き合いはほとんどしていない	不明・無回答
10代(n=8)	-	-	-	62.5	37.5	-
20代(n=27)	3.7	-	11.1	70.4	14.8	-
30代(n=59)	6.8	1.7	8.5	66.1	16.9	-
40代(n=91)	5.5	1.1	23.1	59.3	9.9	1.1
50代(n=117)	11.1	12.8	23.9	44.4	7.7	-
60代(n=163)	11.0	13.5	27.6	42.3	3.7	1.8
70代以上(n=199)	16.6	22.6	30.2	28.1	2.0	0.5

- 近所付き合いの程度については、「あいさつ程度がほとんど」が全体で4割となっています。年代別で見ると、年齢が高くなるほど、「近所付き合いはほとんどしていない」と回答した人が少なく、一方で「会えば親しく話をする人がある」と回答した人が多い傾向がみられます。このことから年齢が高くなるほど、近所の人と密な関係であることがうかがえます。

■現在、あなたの住んでいる地域の中での問題点・不足していると思うものはなんですか。（あてはあるものすべてに○）

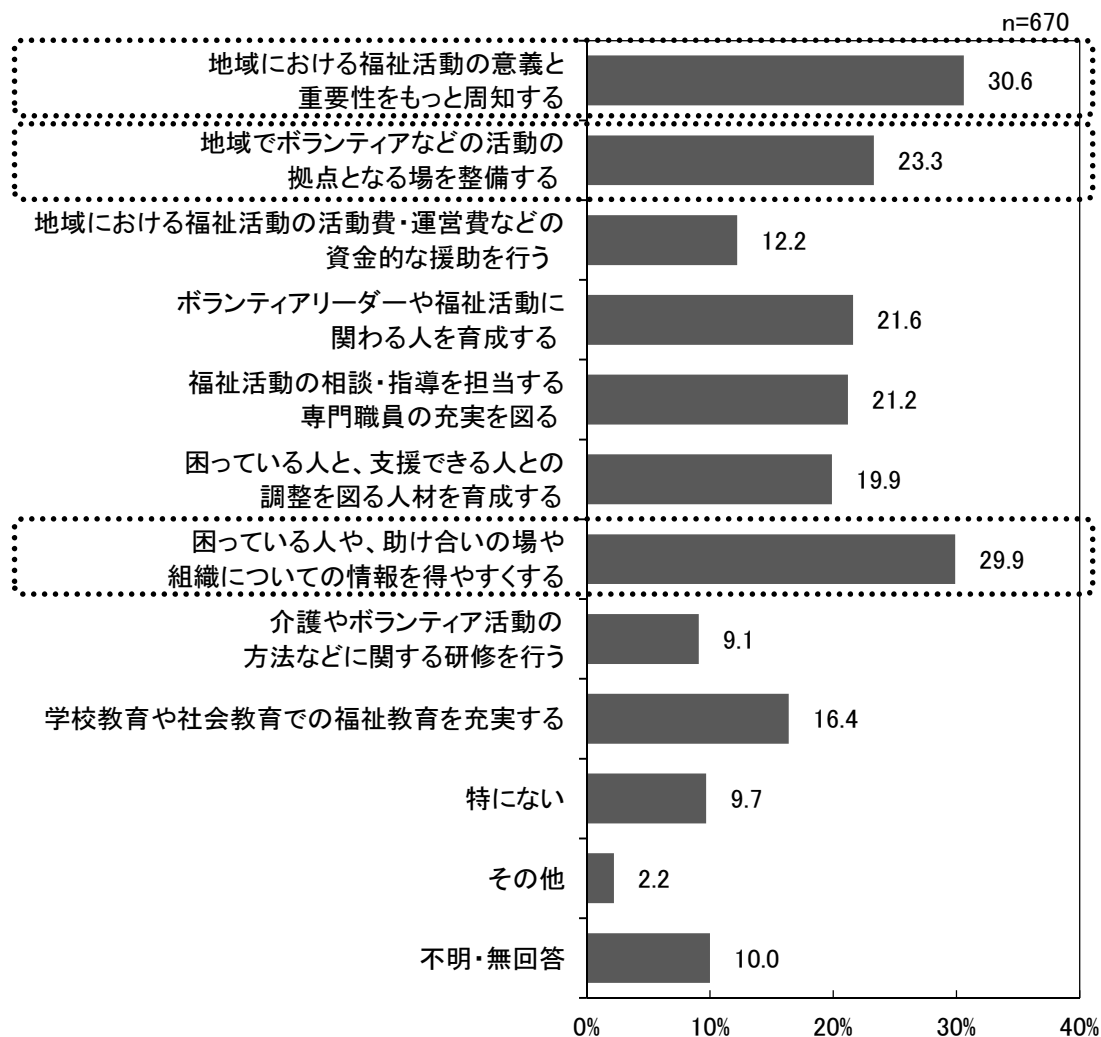


□年代別集計

単位: %	近所付き合いが減っていること	町内会・自治会の活動に参加しにくい雰囲気があること	ひとり親家庭、障害者家庭への偏見があること	他人に干渉されプライバシーが守られないこと	日中、地域を離れている人が多いこと	地域に関心のない人が多いこと	地域活動への若い人の参加が少ないこと	地域での交流機会が少ないこと	助け合い、支え合いは必要ないと思うこと	その他	不明・無回答
10代 (n=8)	37.5	12.5	-	-	12.5	12.5	25.0	-	-	12.5	25.0
20代 (n=27)	22.2	14.8	3.7	7.4	7.4	14.8	25.9	11.1	3.7	18.5	7.4
30代 (n=59)	28.8	15.3	1.7	5.1	6.8	18.6	23.7	22.0	5.1	20.3	8.5
40代 (n=91)	27.5	14.3	-	5.5	8.8	17.6	26.4	20.9	7.7	6.6	16.5
50代 (n=117)	31.6	17.1	6.0	2.6	17.9	23.9	20.5	12.0	6.0	11.1	8.5
60代 (n=163)	51.5	22.7	2.5	4.3	7.4	28.8	25.2	25.8	4.3	5.5	11.0
70代以上 (n=199)	49.7	11.6	2.0	3.0	11.6	28.1	21.1	19.1	3.5	7.5	14.6

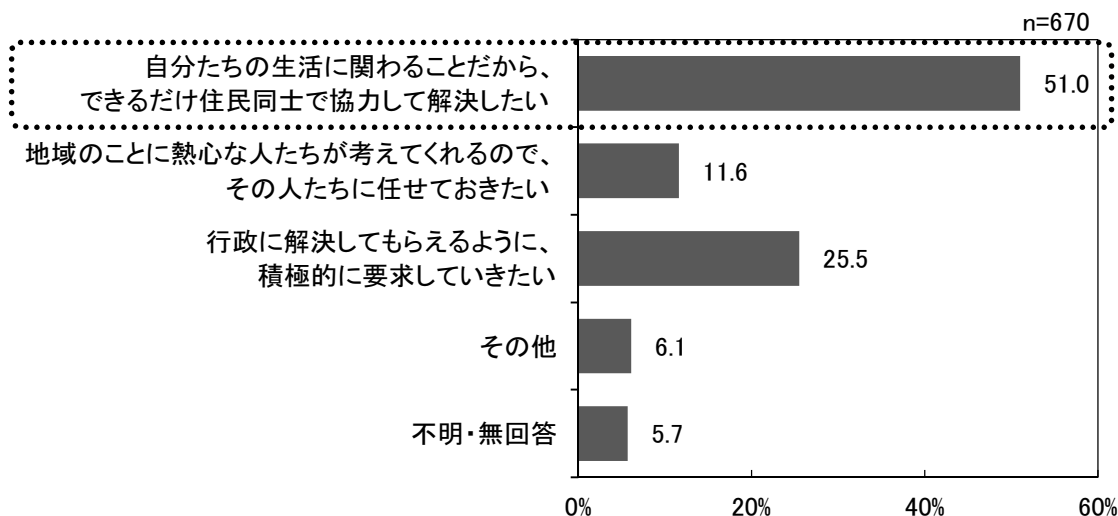
- ・現在、住んでいる地域の中で問題点・不足していると思うものについては、「近所付き合いが減っていること」、「地域に関心のない人が多いこと」、「地域活動への若い人の参加が少ないこと」が上位に挙がっています。なかでも、20代では「地域活動への若い人の参加が少ないこと」と回答した割合が最も高くなっています。

■地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで○）



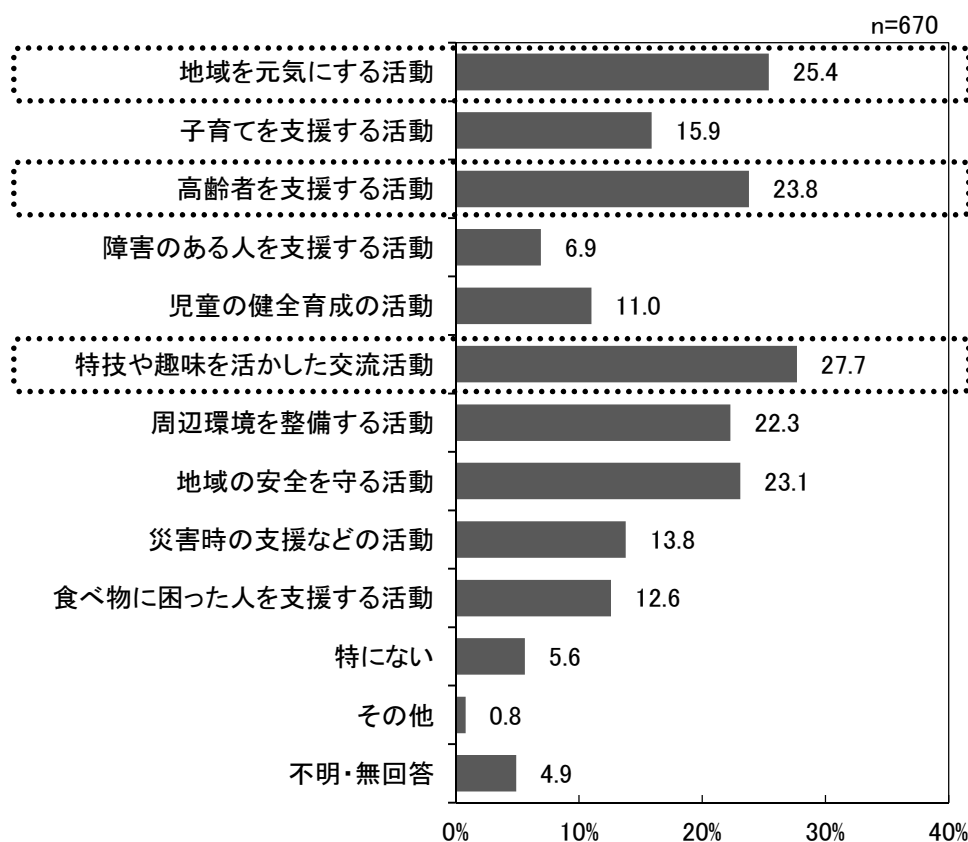
- 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なことについては、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと周知する」、「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」、「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」が上位に挙がっています。

■日常生活の中で起こる問題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。（ひとつだけ○）



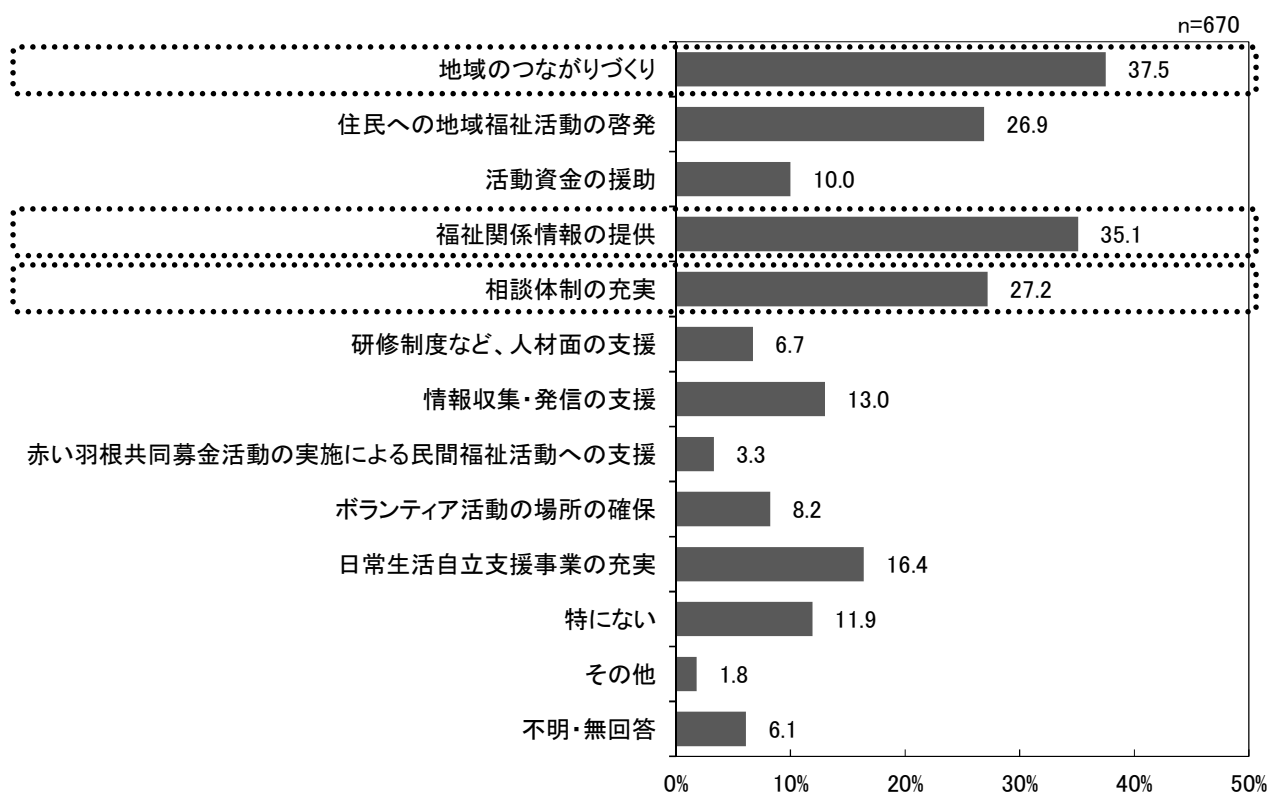
- ・日常生活の中で起こる問題に対して、解決する方法については、「自分たちの生活に関わることから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」が約半数を占めています。

■あなたが今後してみたい地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等は何ですか。（3つまで○）



- ・今後してみたい地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動では、「特技や趣味を活かした交流活動」、「地域を元気にする活動」、「高齢者を支援する活動」が上位に挙がっています。

■社会福祉協議会に期待することはどんなことですか。（3つまで○）



□年代別集計

単位: %	地域のつながりづくり	住民への地域福祉活動の啓発	活動資金の援助	福祉関係情報の提供	相談体制の充実	研修制度など、人材面の支援	情報収集・発信の支援	赤い羽根共同募金活動の実施による民間福祉活動への支援	ボランティア活動の場所の確保	日常生活自立支援事業の充実	特になし	その他	不明・無回答
10代(n=8)	12.5	12.5	-	37.5	25.0	25.0	25.0	-	12.5	37.5	12.5	-	-
20代(n=27)	37.0	7.4	25.9	25.9	22.2	3.7	14.8	3.7	18.5	3.7	18.5	3.7	3.7
30代(n=59)	25.4	20.3	1.7	32.2	32.2	10.2	16.9	3.4	5.1	15.3	20.3	3.4	3.4
40代(n=91)	31.9	25.3	9.9	38.5	27.5	12.1	15.4	1.1	11.0	16.5	15.4	1.1	1.1
50代(n=117)	39.3	23.1	9.4	32.5	29.9	8.5	10.3	0.9	6.8	17.1	11.1	4.3	5.1
60代(n=163)	42.9	27.6	11.0	41.7	28.8	6.7	16.6	1.8	8.0	19.6	9.8	-	4.3
70代以上(n=199)	40.2	34.2	10.6	32.7	23.6	2.0	9.0	6.5	7.5	15.1	9.0	1.0	11.1

- ・社会福祉協議会に期待することでは、「地域のつながりづくり」、「福祉関係情報の提供」、「相談体制の充実」が上位に挙がっています。年代別にみると、20代と50代以降で「地域のつながりづくり」が多く、10代と30代、40代で「福祉関係情報の提供」が多くなっています。
- ・自由回答では、「助け合い、支え合いが出来る基本は互いに個人個人が認めあえる事が必要だと考えます。」【70代以上男性】、「助け合い、支え合いを行うにも相手を知らないことには意味をなさないと思うので、大泉まつりほどの規模まではいかなくとも、地域のイベントがあるといいと思う。」【20代男性】、「ボランティア活動が行政区ごとに異なったことを進めているように思いますが、いい活動を広げるような対応をお願いします。また、活動自体のPRが不足しているように思います。」【50代男性】といった意見がありました。

《座談会・各テーマで話し合った理想の地域に近づける具体的な方策》

テーマ① 地域における助け合い・支えあい活動が活発な地域とは？

- ・隣近所への気配りをする。（自助）
- ・各地域行事において世代間交流を工夫する（人材育成）。（互助・共助）
- ・児童館など公的施設の地域開放（利用）を工夫する。（公助）

テーマ② 住民の方全員が地域活動に積極的に参加している地域とは？

- ・自分に合ったサークルを見つけ、参加する。（自助）
- ・区内ではさまざまな行事があるが、参加者が少ない。PRをもっと多くする。（互助・共助）
- ・町の広報できめ細かく地域活動のPRをする。（公助）

テーマ③ 地域（内・間）の交流が多い地域とは？

- ・イベントに参加する。（自助）
- ・地域の人とコミュニケーションをとる。（互助・共助）
- ・公的施設、交流場所を整備する。（公助）

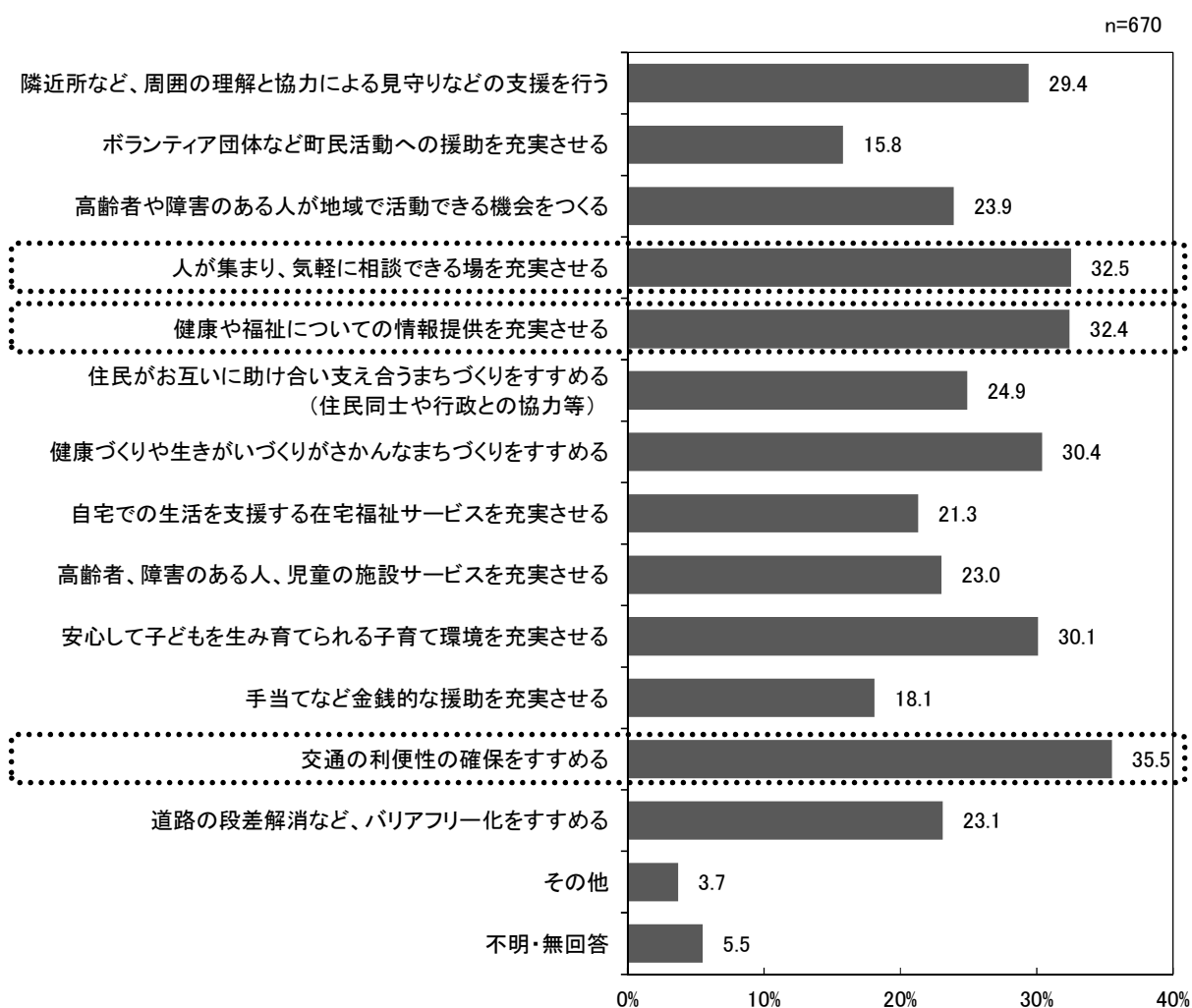
アンケート調査・座談会から見えてきたこと

地域での助け合い、支え合いを進めていくきっかけとして、地域の人たちが交流する機会をつくるイベントの実施とそのための既存施設の活用を進めていく必要があります。

また、そのイベント自体の創意工夫や周知を行っていくことが求められています。

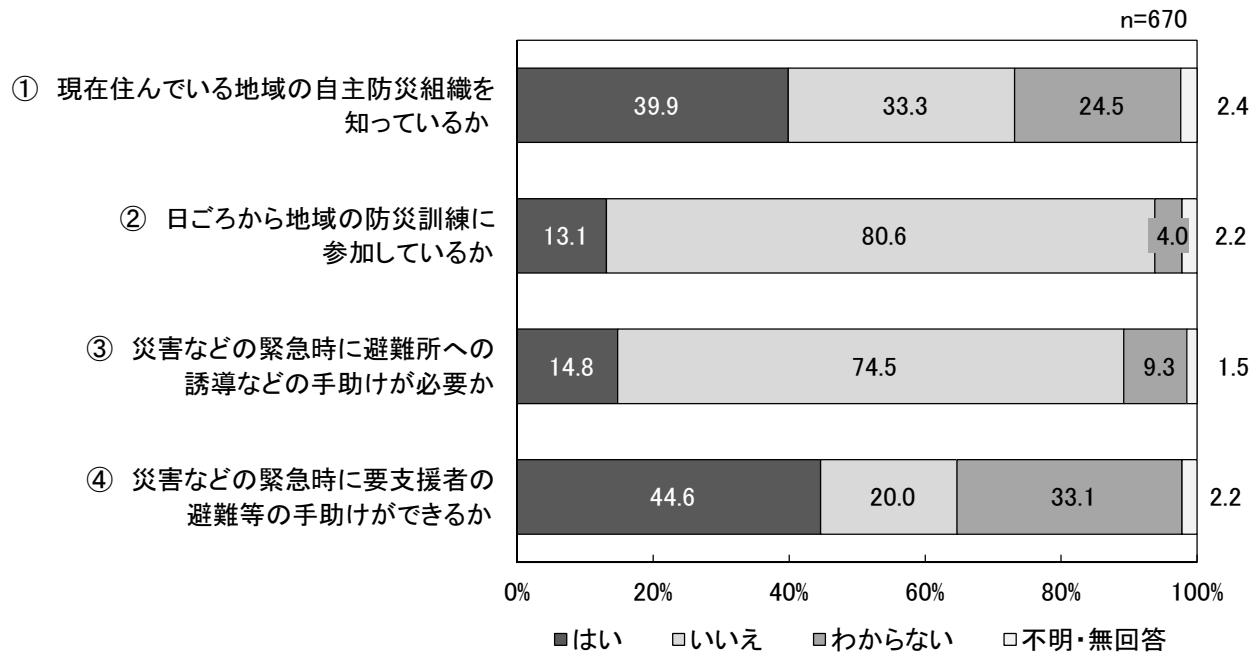
(3)生活環境・福祉サービスについて

■大泉町の保健福祉施策をより充実していくために重要と考える取り組みはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)



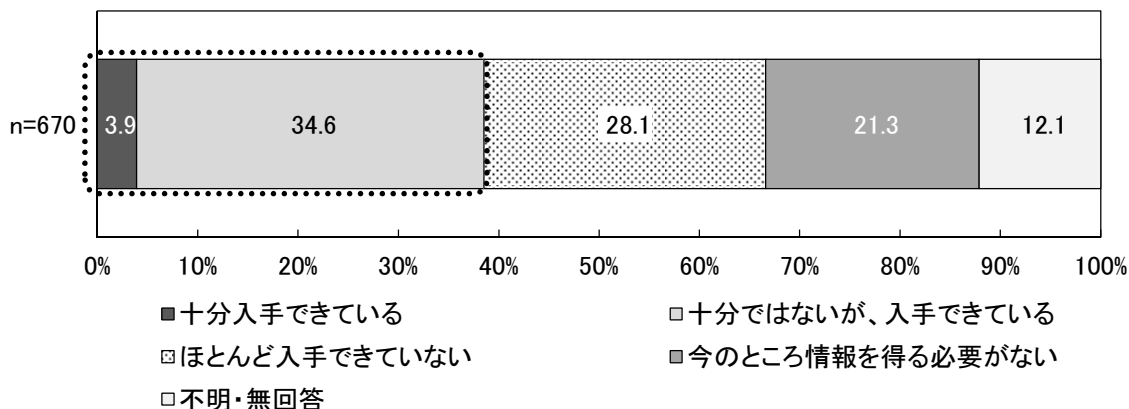
- ・本町の保健福祉施策をより充実していくために、重要な取り組みとしては、「交通の利便性の確保をすすめる」、「人が集まり、気軽に相談できる場を充実させる」、「健康や福祉についての情報提供を充実させる」が上位に挙がっています。

■あなたは防災に対する日ごろからの取り組みや、災害などの緊急時の対応についてどのようにお考えですか。（それぞれひとつだけ○）



- ・【①②】現在、住んでいる地域に自主防災組織があるのを知っているかについては、「はい」と答えた人の割合が、39.9%となっており、一方で日ごろから防災訓練に参加しているかについては、「いいえ」と答えた人の割合が80.6%となっています。
- ・【③④】災害などの緊急時に避難所への誘導などの手助けが必要かについては、「はい」と答えた人の割合が14.8%となっており、一方で高齢者世帯や障害者などの要支援者の避難等の手助けができるかについては、「はい」と答えた人の割合が44.6%となっています。

■あなたは、自分に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているとお考えですか。（ひとつだけ○）



□年代別集計

単位: %	十分入手できている	十分ではないが、入手できている	ほとんど入手できていない	今のところ情報を得る必要がない	不明・無回答
10代 (n=8)	-	12.5	12.5	75.0	-
20代 (n=27)	-	18.5	29.6	44.4	7.4
30代 (n=59)	1.7	23.7	44.1	27.1	3.4
40代 (n=91)	3.3	31.9	30.8	20.9	13.2
50代 (n=117)	2.6	34.2	28.2	28.2	6.8
60代 (n=163)	3.7	36.8	28.8	22.1	8.6
70代以上 (n=199)	6.5	41.7	22.1	9.5	20.1

- ・自分に必要な「福祉サービス」の情報の入手は「十分入手できている」及び「十分ではないが、入手できている」と答えた人の割合が38.5%であるのに対し、「ほとんど入手できていない」と答えた人の割合が28.1%となっています。
- ・年代別にみると「十分ではないが、入手できている」と答えた人の割合について、70代以上で4割を超えているものの、年代が低くなるにつれ、入手できている割合が減少傾向にあり、「ほとんど入手できていない」及び「今のところ情報を得る必要がない」が多くなる傾向がみられます。
- ・自由回答では、「困っている人がいたら、メールやラインなどで行政へ連絡できるようにする。」【50代男性】、「相談事が外部に漏れるかもしれないという不安があり、公共の場を利用しないケースが多いと思います。」【50代女性】、「地域全員で参加する年2回の道路清掃の取り組みは、とっても良いと思います。隣組等で顔を合わせるのだから、終了後、皆でお茶(ジュース等)を飲みながら井戸端会議をして、近所の家族の近況を知り合い、災害の時の手助けにつながっていければと思います。」【50代女性】といった意見がありました。

《座談会・各テーマで話し合った理想の地域に近づける具体的な方策》

テーマ④ 支援を必要とする方々（子育て家庭や高齢者、障害者など）が住みやすい地域とは？

- ・家の周りを、車椅子で動ける様にきれいにする。（自助）
- ・学校と地域が連携する。（互助・共助）
- ・困っている人に色々な制度を教える。（公助）

テーマ⑤ 災害に備えている地域とは？

- ・防災訓練などに参加する。（自助）
- ・一人暮らしの人を地域で気遣う。（互助・共助）
- ・災害時の連絡ルートの確保。（公助）

アンケート調査・座談会から見てきたこと

今後、福祉のまちづくりを進めていく上で災害時等における情報の共有と連携体制の強化が重要となっており、地域と行政、学校と地域などさまざまな団体や機関の連携を密にしていく必要があります。

さらに、そこに暮らす住民にとって住みやすい地域にするために生活環境の整備も求められています。

5 地域福祉関係団体アンケート調査結果

■ アンケート調査の実施状況

対象	福祉関係事業所や団体（保育園、社会福祉法人など）
調査期間	平成 29 年 8 月 25 日（金）～9 月 11 日（月）
配布・回収	郵送による配布・回収
配布数	42 件
回収数	34 件
回収率	81.0%

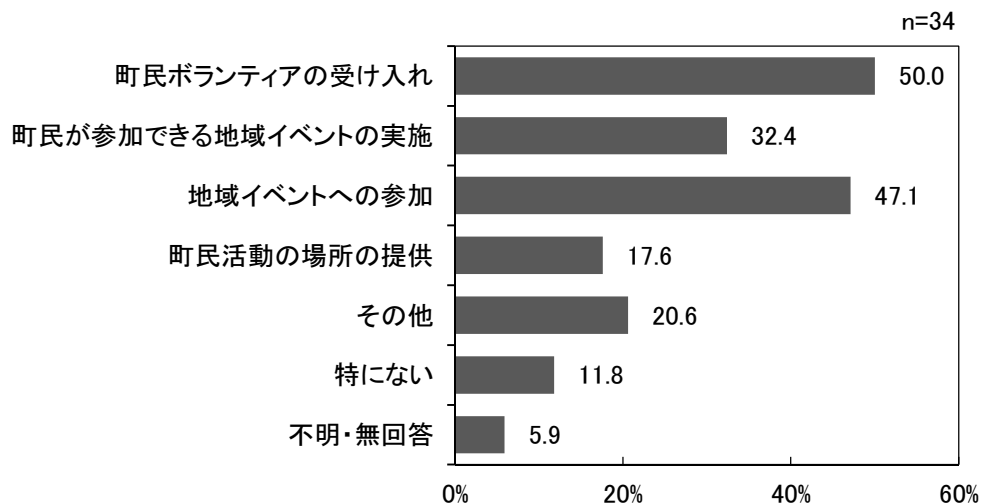
※グラフ中の n = ○○ という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。

※回答結果の割合（%）はサンプル数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものであるため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。

（1）施設・事業所の業務・活動について

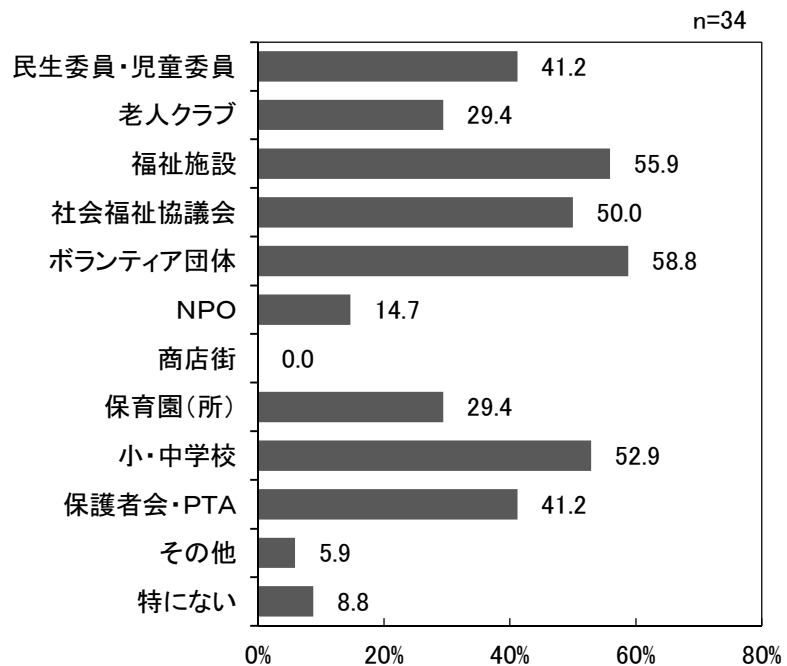
※グラフ中の n = ○○ という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。

■ 業務・活動の中で地域と一緒にやっていることや地域に向けて行っていること（複数回答）



- ・「町民ボランティアの受け入れ」が最も高く、次いで、「地域イベントへの参加」「町民が参加できる地域イベントの実施」となっています。

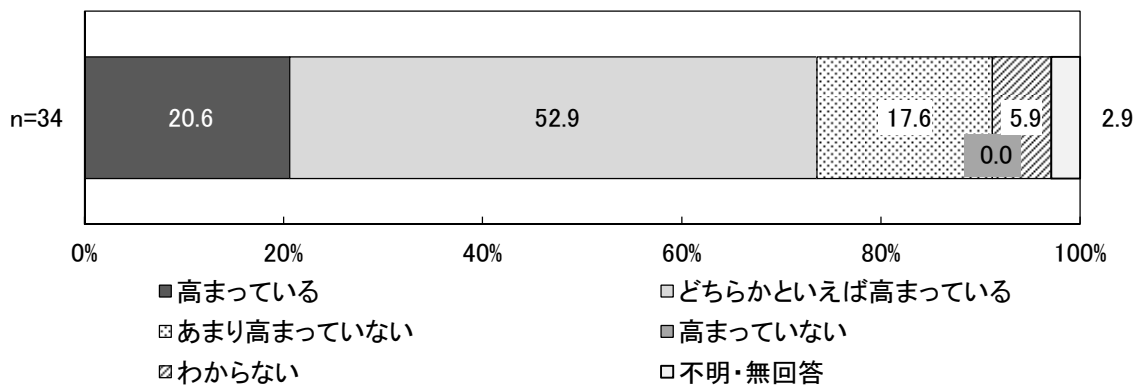
■活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力の関係があるか（複数回答）



・「ボランティア団体」が最も高く、次いで、「福祉施設」「小・中学校」となっています。

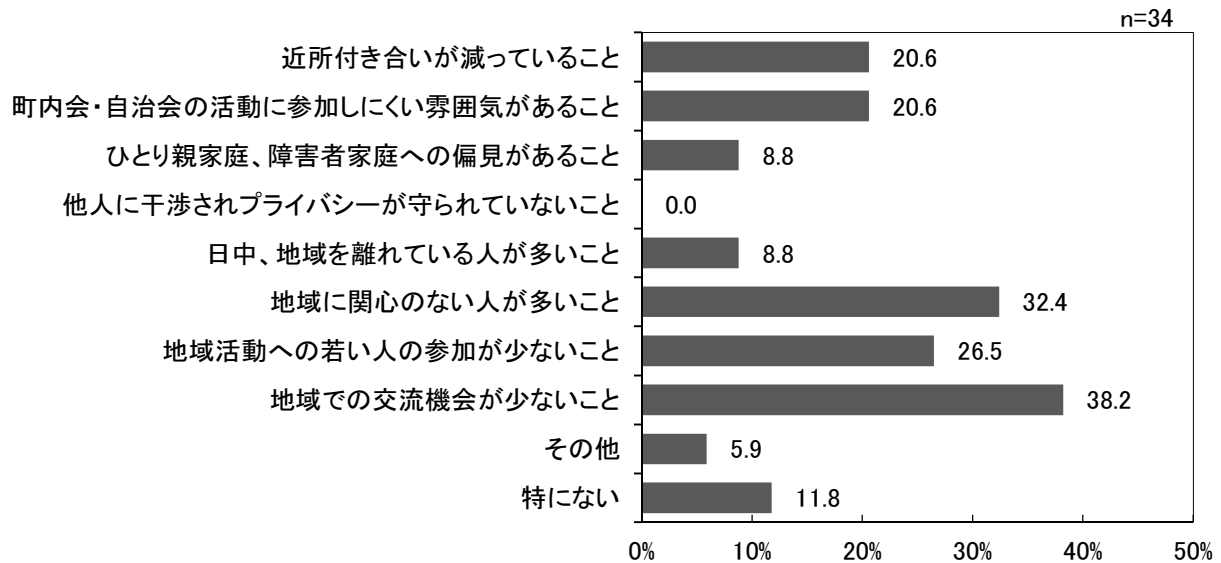
(2)地域の状況について

■大泉町における地域福祉に対する意識は高まっているか（単数回答）



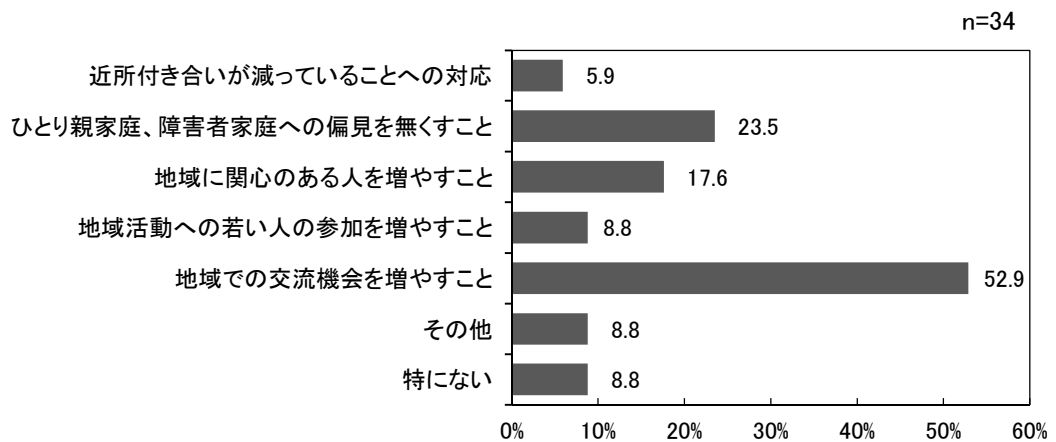
・「高まっている」「どちらかといえば高まっている」を合わせた割合が73.5%で「あまり高まっていない」「高まっていない」を合わせた割合を上回っています。

■ 普段の業務・活動の中で感じる地域の問題点や不足していると思うもの（複数回答）



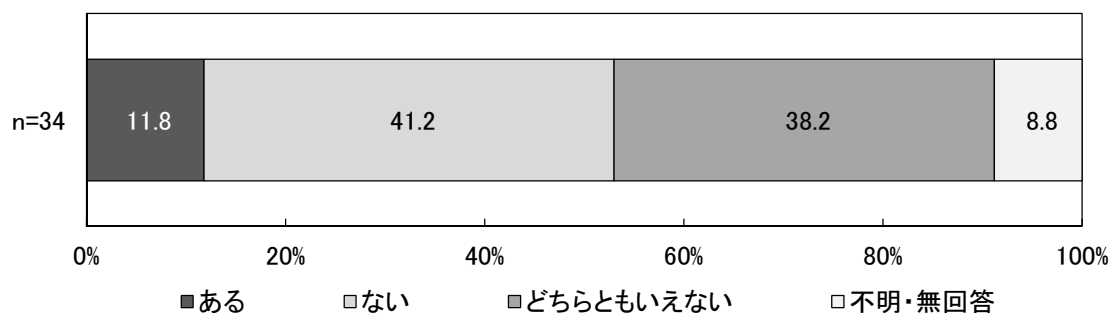
- ・「地域での交流機会が少ないこと」が最も高く、次いで、「地域に関心のない人が多いこと」「地域活動への若い人の参加が少ないこと」となっています。

■ 地域の問題点や不足していると思うものの中で、施設・事業所に対応ができること（複数回答）



- ・「地域での交流機会を増やすこと」が最も高く、次いで、「ひとり親家庭、障害者家庭への偏見を無くすこと」「地域に関心のある人を増やすこと」となっています。

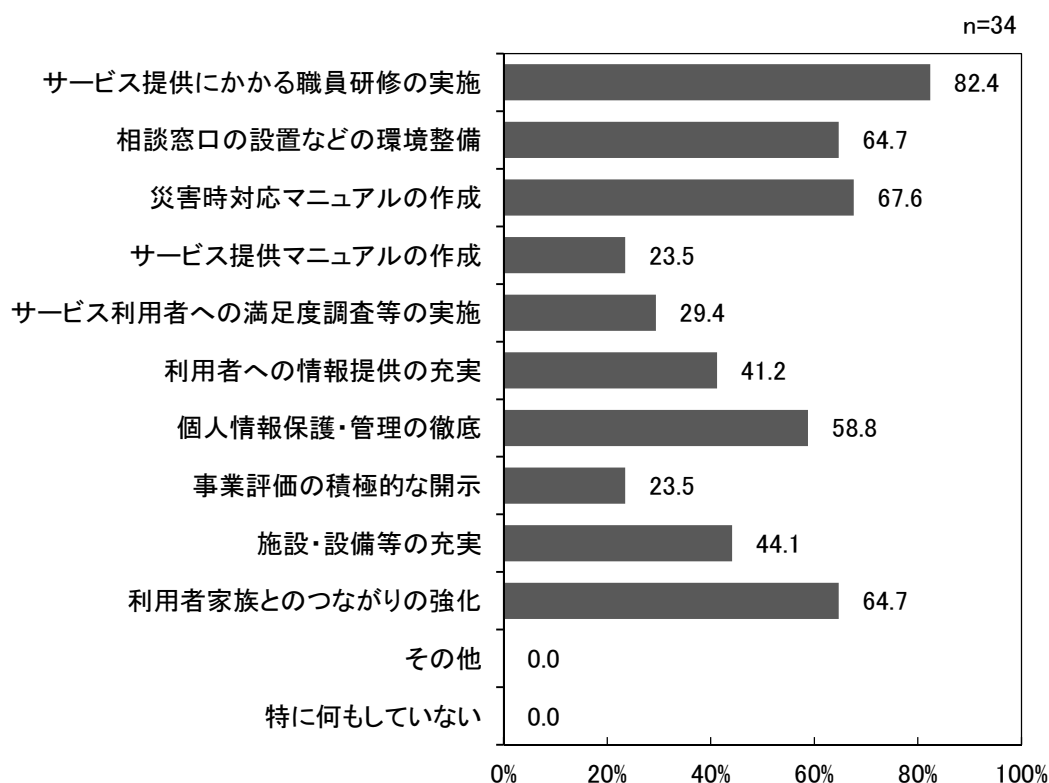
■既存の公的な福祉サービスでは解決できず困っている問題があるか（単数回答）



・「ある」が 11.8%で「ない」の 41.2%を下回っているものの、「どちらともいえない」も 38.2%となっています。

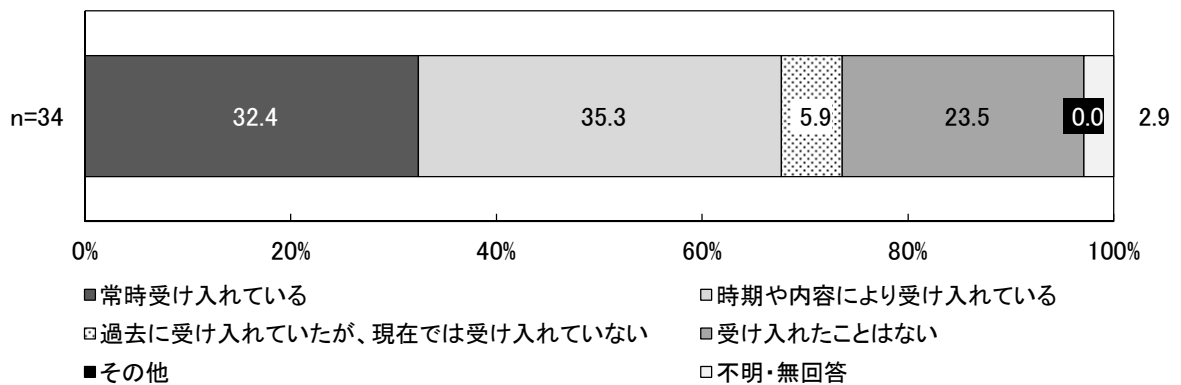
（３）施設・事業所の現状について

■施設・事業所で、サービスの質の向上のために取り組んでいること（複数回答）



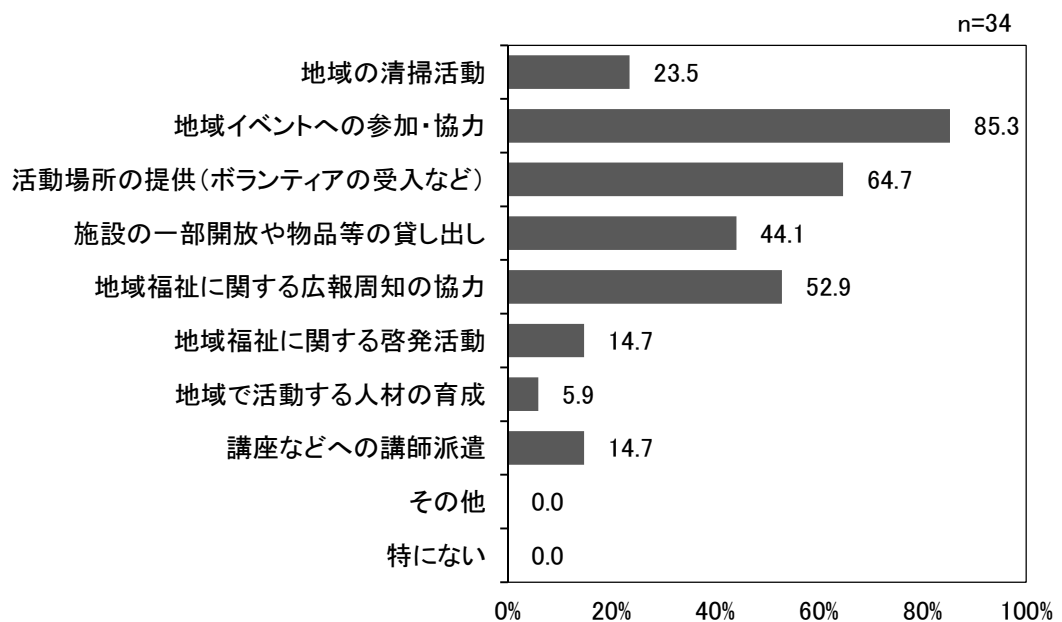
・「サービス提供にかかる職員研修の実施」が最も高く、次いで、「災害時対応マニュアルの作成」「相談窓口の設置などの環境整備」「利用者家族とのつながりの強化」となっています。

■大泉町内の団体や住民によるボランティアの受け入れを行っているか（単数回答）



・「常時受け入れている」「時期や内容により受け入れている」を合わせた割合が67.7%となっている一方、「受け入れたことはない」が23.5%となっています。

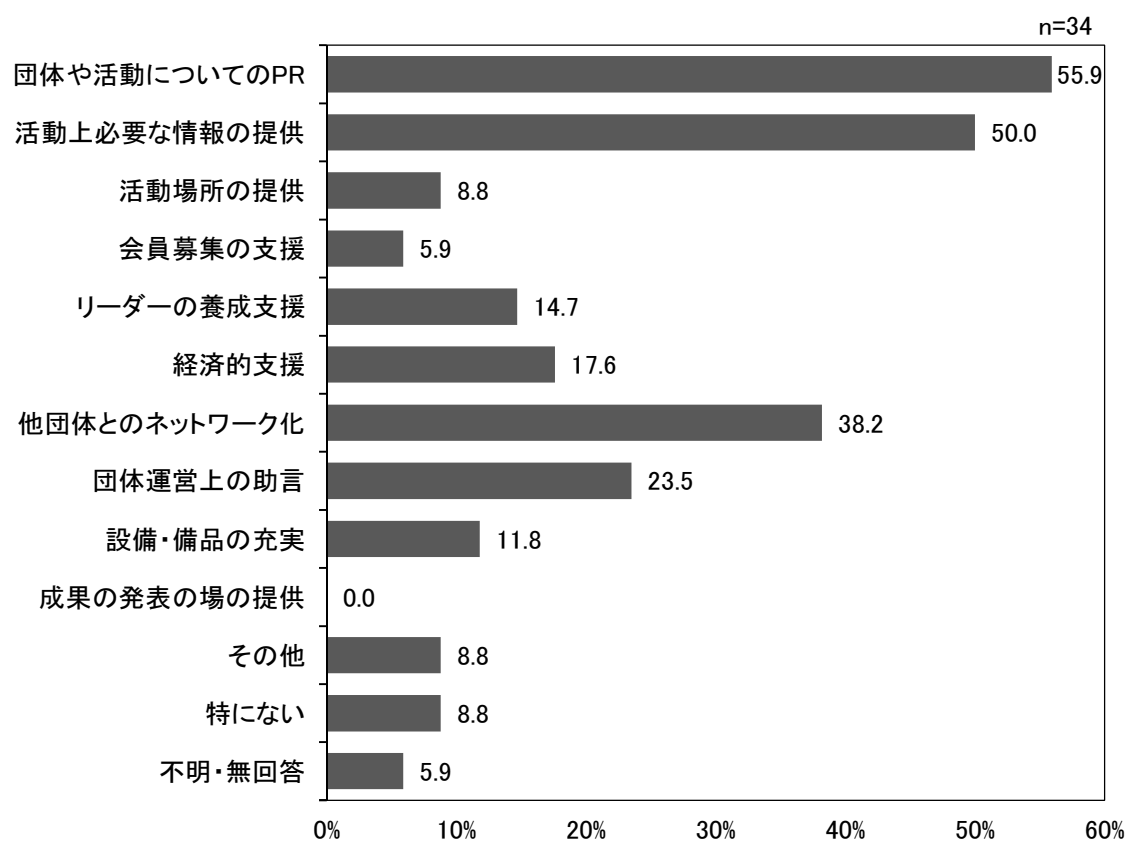
■地域福祉について協力（貢献）できること（複数回答）



・「地域イベントへの参加・協力」が最も高く、次いで、「活動場所の提供（ボランティアの受入など）」「地域福祉に関する広報周知の協力」となっています。

(4)大泉町における地域福祉の取り組みについて

■施設・事業所が業務・活動をしていく上で町や社会福祉協議会に望むこと（複数回答）



- ・「団体や活動についてのPR」が最も高く、次いで、「活動上必要な情報の提供」「他団体とのネットワーク化」となっています。

6 前回計画の実施状況

前回計画に位置付けられている各施策の「行政で取り組むこと」「社会福祉協議会（社協）で取り組むこと」について、町・社協の担当部署において実施状況調査として評価を行い、それらをもとに、基本目標及び各取り組みごとにまとめました。

（１）基本目標１ ～「もっと活力」～ 地域福祉推進体制づくり

取り組み	行政／社協	該当事業数	評価結果							
			十分できた		概ねできた		あまりできなかった		未実施	
1. 地域福祉の意識づくり	行政	10	7	70.0%	3	30.0%	0	0.0%	0	0.0%
	社協	18	5	27.8%	12	66.7%	1	5.5%	0	0.0%
2. 地域福祉を支える人材の育成	行政	4	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
	社協	18	2	11.1%	10	55.6%	6	33.3%	0	0.0%
3. 地域活動やボランティア活動などの活性化	行政	7	2	28.6%	5	71.4%	0	0.0%	0	0.0%
	社協	26	5	19.2%	12	46.2%	9	34.6%	0	0.0%

（２）基本目標２ ～「ぐっとつながる」～ ふれあい・支えあいづくり

取り組み	行政／社協	該当事業数	評価結果							
			十分できた		概ねできた		あまりできなかった		未実施	
1. 地域でのふれあい、交流の場づくり	行政	6	1	16.7%	5	83.3%	0	0.0%	0	0.0%
	社協	14	2	14.3%	5	35.7%	7	50.0%	0	0.0%
2. 地域における支えあい助けあいの仕組みづくり	行政	4	3	75.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
	社協	12	2	16.7%	10	83.3%	0	0.0%	0	0.0%
3. 地域福祉のネットワークづくり	行政	5	1	20.0%	4	80.0%	0	0.0%	0	0.0%
	社協	22	0	0.0%	16	72.7%	5	22.7%	1	4.6%

（３）基本目標３ ～「ほっと安心」～ 安心、快適な環境づくり

取り組み	行政／社協	該当事業数	評価結果							
			十分できた		概ねできた		あまりできなかった		未実施	
1. 防災・防犯体制の充実	行政	23	8	34.8%	14	60.9%	1	4.3%	0	0.0%
	社協	11	1	9.1%	7	63.6%	3	27.3%	0	0.0%
2. 保健・福祉サービスの充実	行政	30	17	56.7%	13	43.3%	0	0.0%	0	0.0%
	社協	12	0	0.0%	5	41.7%	6	50.0%	1	8.3%
3. 暮らしやすい生活環境の充実	行政	9	3	33.3%	6	66.7%	0	0.0%	0	0.0%
	社協	8	3	37.5%	3	37.5%	1	12.5%	1	12.5%

7 大泉町の地域福祉に関わる課題

本町の地域福祉をめぐる主な課題を整理すると、以下のようにまとめられます。

■地域福祉を支える人づくり

全国的に核家族化や高齢化、家族のあり方の変容、近所付き合いの希薄化により、地域での孤立・孤独が危惧される状況となっており、これは本町においても同様で、地域における課題は複雑化かつ多様化しています。また、アンケートや地域福祉座談会では、地域のつながりづくりを求める意見が挙げられており、地域力の希薄化がうかがえます。

地域福祉を進めていくためには、町民の参加・協力は不可欠です。前回計画期間から町民に向けた地域福祉の啓発活動に取り組んでいましたが、一層の意識啓発が重要であり、地域福祉の担い手となるボランティアの育成や活動団体への支援など、人材の育成や活用を推進していく必要があります。

■活動の輪を広げる地域づくり

生活習慣や価値観の多様化などから、人と人とのつながりが希薄化しており、地域の中での日常的なコミュニケーションや交流する機会が減少していることがうかがえます。アンケートや地域福祉座談会では、世代間や隣近所の交流、気軽に集まれる場がないといった、交流に関する意見が挙げられています。

今後は誰もが地域の担い手として主体的にふれあい、支えあいながら、活動できる地域づくりが求められています。

■必要な支援につながる仕組みづくり

要支援・要介護認定者の増加などに伴い、福祉サービスを受ける人は増加しており、その傾向が続くことが予測され、福祉や保健に対する需要も拡大、多様化することが見込まれています。

そのため、公的な福祉サービスの量・質的な確保を図るとともに、地域における支えあいも含めた形で、支援を必要とする人を支えていくことが求められています。

また、アンケートや地域福祉座談会では、情報提供や相談支援に対するニーズが高く、支援を必要とする人が必要な福祉サービスを適切に利用することができるよう、福祉に関する相談機能の強化に努めるとともに、情報提供体制についても多様な発信手段を検討する必要があります。

■安全・安心・快適に暮らせる環境づくり

緊急時に頼りになるのは、常日頃からの近所付き合いや避難訓練などの平常時のつながりと備えです。アンケートでは、地域の人に手助けできることとして緊急時の手助けや安否確認の声かけなど非常時の内容が特に多くなっている一方で、平時での地域の防災訓練への参加状況は低くなっています。

今後は、防災・防犯などに地域全体で取り組みながら、快適な生活環境の整備を進めるなど、地域の中で誰もが安全で安心して暮らせる環境づくりが必要です。